ビスホスホネート系薬剤と顎骨壊死

ビスホスホネート系薬剤を使用する上での注意は？

ビスホスホネート系薬剤は、骨粗しょう症の治療、悪性腫瘍（がん）の骨への転移や骨量が減少する疾患（病気）の治療に使われています。これらの疾患に対してビスホスホネート系薬剤は非常に有用ですが、10 万人に 1 人の割合で投与を受けている患者さんに顎骨壊死（がっこつえし）がみられたとの報告があり、使用にあたっては注意が必要です。

顎骨壊死とは？

顎骨壊死とは、あごの骨の組織や細胞が局所的に死滅し、骨が腐った状態になることです。あごの骨が腐ると口の中にもともと生息する細菌による感染が起こり、病状がさらに悪化します。

顎骨壊死を起こしやすい条件は？

ビスホスホネート系薬剤の投与による顎骨壊死は、単独でも生じますが、次の条件が重なった時に起こりやすいといわれています。

①がんに対する化学療法、ホルモン療法
②ステロイド薬の投与
③抜歯などの歯科処置
④局所（あご付近）への放射線治療
⑤口腔の不衛生

予防方法は？

顎骨壊死は一度発症すると完全に治るのは難しいため、発症しないように日ごろの予防が大切です。予防には、以下の方法などがあります。

①病院を受診する時は医師に、歯科・口腔外科を受診する予定がある・受診中であることを伝える
②服用を開始する前に適切な歯科検査を受け、必要に応じて抜歯などの歯科処置を済ませておく
③服用中は、定期的に歯科で口腔内のチェックを受ける
④服用中は、抜歯などのあごの骨を傷つけるような歯科処置は医師と十分に相談する
⑤服用中は、服用していることを歯科・口腔外科医師に伝える（お薬手帳などを提示する）
⑥口腔内を清潔に保つ

服用中、注意する症状は？

「口の中の痛み、特に抜歯後の痛みがなかなか治まらない」・「歯ぐきに白色あるいは灰色の硬いものが出てきた」・「あごが腫れてきた」・「下くちびるがしびれた感じがする」・「歯がぐらついてきて、自然に抜けた」などの症状がみられた場合には、直ちに歯科・口腔外科を受診してください。

主なビスホスホネート系薬剤

飲み薬（商品名）

ダイドロネル、フォサマック・ボナロン、アクトネル・ベネット、リカルボン・ボノテオ

注射薬（商品名）

アレディア、テイロック、ビスフォナール、ゾメタ

川崎社会保険病院　薬剤部　　榊田 晴美